

0660 | 彫塑 III

2 単位 (面接授業 2 単位)

協谷徹教授、戸田裕介教授、山本一弥准教授

授業の概要と目標

山羊または羊の頭部を観察し、一辺が 20cm の立方体に製材された木を素材に彫刻を制作します。木を素材に制作すると、粘土や石膏で制作するときと比べ硬い素材であるため作業量が増えます。また、木が、粘土や石膏のように簡単に付け加えることが難しい素材であるため、原則的にはすでに存在する量を、切削し取り去ること、すなわちマイナス作業だけで制作を進めるといった特質があります。

かつて美術大学では、木彫・石彫といった素材を使う制作は高学年になってから課されました。木彫は、可塑性の高い素材（例えば粘土）で立体造形に関する一定の訓練を積んだ後に行うことが前提とされていました。そういう旧来の観点から、木で制作する授業を初学者に課すことは無謀だと受け止める意見もあります。たしかに、鋸で引く、あるいは鑿を入れる際に必要な判断を下すためには、造形上の厳密さと、それに先立つ対象を見ることの厳密さが求められます。

しかし、木で彫刻を作成するときのそういった特質こそが、彫刻制作の初心者に思い切った判断や決断を促す優れた彫刻素材だという理由でもあります。切り出され彫り出された形が、明確な立体上の性格を帯びやすいことも、初学者の彫刻制作の体験を鮮やかなものとしてくれるでしょう。

この授業で、モチーフとして観察対象にする自然物は、それぞれの生成にともなう構造や、それらが育つ途中で受けた自然条件が個別の形体を作り出しています。各自が選んだ身近な自然物であるモチーフを繰り返し観察し、彫刻を制作する課程で、自然の摂理をはじめとする造形上の様々な要素を発見してください。

※この授業は木工技術を習得する授業ではありません。また、受講に当たって、事前に木工技術を事前学習しておく必要もありません。(木で彫刻を作るための最小限の道具の使い方や技術指導・説明は、必要に応じて授業内で行います)

彫刻Ⅰ・Ⅲともに授業の基本姿勢は共通しているのので、履修を希望する人は、彫塑Ⅰの頁も合わせて読んでおいてください。

課題の概要

○面接授業課題

自然物をモチーフに、一辺 20cm の立方体に製材された木材で、寄木造りという技法を用いて制作します。

授業計画

[面接授業]

第 1 日	午前：前提講義 研究室の教育方針・課題内容・主旨の説明。授業に必要な、道具・材料の解説及び作業上の諸注意・鋸挽き説明	午後：制作 (木彫)
第 2 日	午前：制作	午後：制作・木材接着説明
第 3 日	午前：制作	午後：制作 鑿研ぎ説明
第 4 日	午前：制作	午後：制作
第 5 日	午前：制作	午後：制作
第 6 日	午前：制作	午後：清掃、講評・採点

成績評価の方法

完成作品と制作プロセス両方を、担当する全教員で評価する。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 2～4 年次

[履修条件] 「造形基礎Ⅰ～Ⅳ」の単位を既に修得していることを条件とします。まだ修得していない学生は同時に履修登録してください (3 年次編入学生を除きます)。

[備考] 月刊誌『武蔵美通信』6 月号掲載のスクーリング受講に関する注意事項を熟読してください。

教材等

前提講義時に、参考作品等のスライド上映を行います。

その他

授業初日より、必ず作業服・作業靴 (運動靴可) を着用してください。